

# 愛なき道

For adult only

mechi

## 登場人物

アントニオ・サリエリ…宮廷作曲家、40歳  
ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト…素質素行に難ありの天才音楽家、35歳  
ロール…モーツァルトの家の召使い、サリエリが匿名で派遣している  
コンスタンツェ…モーツァルトの妻

---

このたびは、当同人誌を  
お手にとっていただき、誠にありがとうございました。  
お手に取って読みたいと思っていただき、ありがたく思います。

私は誰よりも音楽を愛したが、神は私に音楽で彼を讃えさせ給わなかった。私は神を憎み、神の声を奏でることを唯一許されたあの男、モーツァルトに嫉妬した。我が君、皇帝ヨーゼフ二世の依頼により彼が作ったオペラ『後宮からの誘拐』で私は打ちのめされ、圧倒的な敗北感と増幅する嫉妬は、次の『フィガロの結婚』を目的の当たりにした時、殺意にも似た凶悪な感情に塗り替わった。

オペラ『フィガロの結婚』は、陛下を始め楽壇（音楽界）や上流層達には受けなかったが、プラハ公演は大成功した。つまり、大衆には受け入れられた。

モーツァルトの音楽は洗練されながら革新的で、音で紡ぐ完璧な美はそれまで誰も聞いたことがなく、観る者、聴く者を至上の音の楽園、つまり天国へと誘った。古典や伝統を重んじる識者層より、時に無知な民の方が無形芸術の真価をそれと知らず解っているものだ。モーツァルトは私など足元にも及ばない天才でありながら、その幼稚な下品さや無礼さは度を越していた。

どうして神はあんな男を愛したのか？

一ヶ月毎晩、十字架に問うても答えはなく、祈っても私にあの偉大な才能の僅か百分の一も与えられることはない。

やがて憎しみは腐臭を放ち始め、屁泥のような憎悪に飲まれた私は、神の最高傑作である彼を傷つけ、打ち壊したい衝動に駆られるようになった。しかし、どれだけ彼が憎く妬ましくとも、彼をこの世界から葬るような真似はできない。

なぜなら私は、私“だけ”が、モーツァルトの音楽をこの世で最も理解でき、そしてそれを誰よりも深く愛しているからだ。

彼の次のオペラ『ドン・ジョヴァンニ』も見事だったが、私は密かに圧力をかけて5回で打ち切らせた。

5回全てを観る間、暗く不吉で、恐ろしくも素晴らしきこの作品に耽溺しているうちに、ついに私の憎悪は狂気に至った。彼を生かしながら打ち倒す、ある“残酷なアイデア”に取り憑かれたのだ。